

第1号、2005年5月

ブラジルにおける第一回総会の成果

2005年3月7～11日にブラジルのバイア州サルバドールで開催された、ISO 社会的責任ワーキンググループ（以下WG）の第一回総会は、ISOの社会的責任分野への初めての冒険の“キックオフ”であったが、新しい構想にふさわしく高い全体出席率を達成し、革新的なステークホルダー参加のうちに新規格策定プロセスが開始された。

この社会的責任WG総会には、43のISO加盟国(発展途上国21カ国を含む)プラス24のリエゾン団体が参加し、合計225人の専門家が出席した。加えて、オブザーバーとしてISO会員や国際組織から多くの人が出席したことから、総出席者数は300人以上となった。

ISOは、SR規格が社会的責任に重大な関心を持っているすべての人々からの幅広いインプットを得られるよう専心してきた。これを達成する革新的な方法は、地理別及び男女別に加えて、各国代表を6種類の指定ステークホルダーカテゴリ（産業界、政府、労働者、消費者、非政府組織、及びその他）からバランスよく参加することを促進することである。

社会的責任WGの第一回総会は、主として次の事柄の議論及び決定が焦点とされた：将来の規格の適用範囲；WGの委任事項；WGの構成；WG下のサブグループのリーダーの割当て；特別作業手順の作成；発行目標日；ISO新計画への強い関心にかなうようためのWG活動のコミュニケーション

WGの決定事項には、次のものが含まれている：

- 議長の諮問グループの設立、委任事項、及びメンバーシップ
- 次のタスクグループ(TG)の設立：
 - TG1（資金調達及びステークホルダーエンゲージメント）；
発展途上国及び消費者といったリソースが限られているところからの参加を増やすための資金を調達する
 - TG2（コミュニケーション）；
透明性及び公開性を確保すべくWGに関する情報を入手できるようにし、情報を普及するための支援ツールを開発し、他のTGにおけるコミュニケーションを手助けし、戦略的プロモーション及びコミュニケーションに対する計画を開発

する

－TG3（運営手順）；

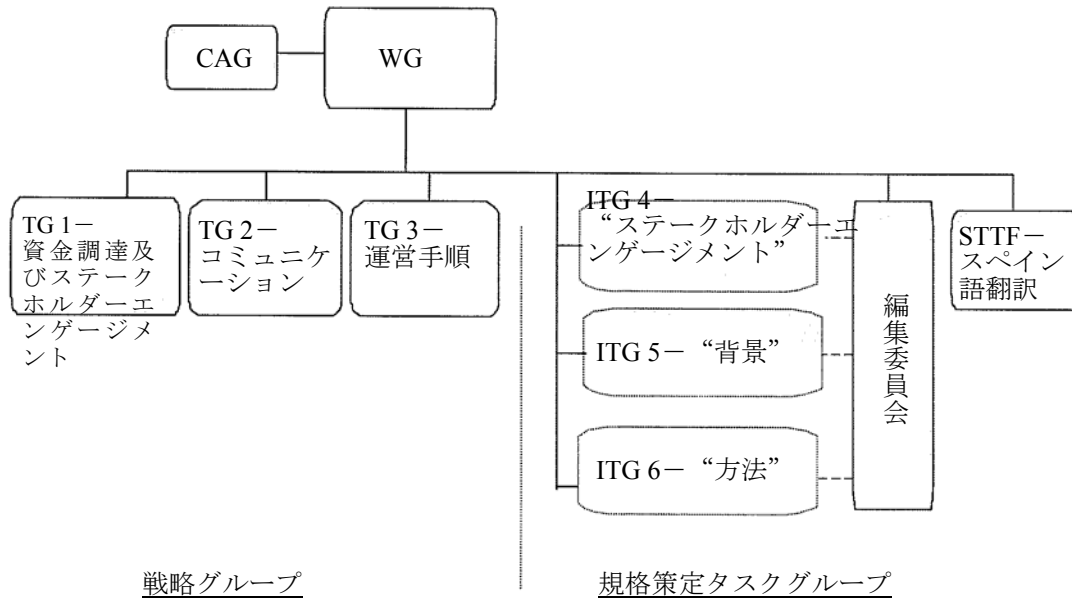
WG の処理過程に関する新手順の改正又は開発作業を行う

■ 将来の SR 規格自体に関係のある局面に関する 3 つの暫定タスクグループの設立。これらのタスクグループは、それぞれその分野に特有の問題を最初に検討し、それらをいかに設計仕様書に反映させ、その後どのように取り組むかについて提言する。暫定タスクグループは、自分たちの第一回 TG 会議でグループの名称を決定することになるが、次の事項に取り組む：

- － 暫定 TG 4 は、ステークホルダーの特定、エンゲージメント及びコミュニケーションについて検討する；
- － 暫定 TG 5 は、社会的責任の中心的な背景：テーマ、定義、（異なるタイプに応じた）方針、及び組織と社会のインターフェイスを検討する；
- － 暫定 TG 6 は、規格にどのように取り組むかを検討する（例：どのような言葉を用いるか）：
 - 社会的責任の中心的背景をあらゆる組織が理解し適用するうえで適切なガイダンス並びに
 - 特定の組織のための適切なガイダンス。

■ 編集委員会の設立。

- ISO 26000 の最終文書だけでなく、WG 活動への効果的な参加のために不可欠であると思われる作業文書の翻訳を行うスペイン語翻訳タスクフォース(STTF)を設立するという合意。
- WG 及びそのすべてのサブグループにおける意思決定手順の採択。
- ISO が国際労働機関(ILO)と締結した社会的責任に関する覚書(MoU)の実施に役立つ運営手順の採択。この覚書は、ISO 26000 が確実に ILO の国際労働基準に一致し、それを補完するものとなるための組織間の協力について定義している。



2005年9月の第二回総会

タイ規格協会(TISI)は、日本工業標準調査会(JISC)と共同で2005年9月26～30日、タイのバンコクにおいてISO/TMB/WG on SRの第二回総会及び関連行事を開催する。バンコク総会は、お互いの経験を交換し、社会的責任に関するガイダンスとなる国際規格を開発するための重大な方策を講ずる方法を議論するフォーラムとなるはずである。バンコク総会の主要な成果は、同規格の設計仕様書－規格の目的及び適用範囲のより詳しい概要、並びにその目的事項を達成するためのガイダンスの提供の仕方に関する構成、が合意される予定である。